

平成28年度第4回まちづくり懇談会

1. 日 時：平成28年11月19日（土） 午後3時00分～
 2. 場 所：船橋市保健福祉センター 大会議室
 3. テーマ：「笑顔があふれる子育てのまち」
 4. 出席者：子育て応援メッセ in ふなばし実行委員会
-

○団体 （子育て応援メッセ in ふなばし実行委員会）

まちづくり懇談会ができましたこと、市長及び市職員の皆さんにお礼申し上げます。また、市長におかれましては、10月17日に開催された子育て応援メッセ（以下「メッセ」）を見学していただき、ほんとうにありがとうございました。

私たちは子育て中の人、それを応援する方、子育ての専門家、行政の方たちが直接触れ合ったり交流を深めることで、子育てにやさしい船橋、住み続けたい町にするということを願って、「メッセ」を立ち上げました。

本日はメンバーそれぞれが経験したことや日常の活動をお話しさせていただき、そして、市長のご意見もたくさんお話しいただいて、実り豊かな会にしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【出席者自己紹介】

○市長 （船橋市長 松戸徹）

今日はお越しいただきまして、ありがとうございます。

現在、船橋市の人口は住民基本台帳上で63万人を超えました。その中で、子供たちや高齢者の皆さんのことまで、様々な行政としての課題がありますが、やはり子供たちを育てていくためには、いろいろな市民の皆さんの力が必要ですし、「メッセ」のような取り組みをしていただいているのは本当に心強く思っています。

これから行政の中で考えなければいけないのは、高齢者の皆さんも含めて様々なイベントに来ない方々に、どのようにスポットを当てていくことができるのかというのが、一つ大きな課題にもなっています。まだまだやらなければならないことはたくさんありますが、今日はぜひ皆さんから、いろいろなご提案もいただきながら勉強させていただく気持ちですので、よろしくお願ひします。

○団体

それでは、1番目の提案として「市民協働による情報発信を進めます」ということにつきまして、それぞれ話しをさせていただきます。

まず、「メッセ」の成り立ちですが、2002年に「ふなばし・あいプラン」※（次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画）策定のためのワークショップが開催されたときに、市民が約40名集まりまして、最初の実行委員メンバーの大半がそこに参加しておりました。ワークショップでは3カ月間にわたり船橋の子育ての20年後のありたい姿を目指して、「ふなばし・あいプラン」の基となる意見がたくさん出されました。その中の一つとして、市民に子育て情報が一元的に届いていない、という意見がありました。そこで船橋市は子育て情報誌「子育てナビゲーション」をつくり、私たちは情報発信と交流の場としての「メッセ」の開催を実行委員会形式で立ち上げました。開催にあたっては、ほんとうに手探りの状態でしたが、多くの方に共感していただくことができアドバイスをいただいたり協力をしていただけたことで、広がりをつくることができ感謝しております。特に今、実行委員長を受けてくださっている清水先生も含め、小児科の先生方にご協力いただけたのはとても心強かったです。

現在の「子育てナビゲーション」では、編集ボランティアが参加せずに作成していますが、かつて行政と協働でつくった事例があるので、ぜひともまた編集ボランティアを募ることで、市民視点が入っているのではないかと思います。

次に、産前産後の女性へのサポートについてですが、とても精神的に不安定になった状態の方がいらっしゃいましたが、支援血縁のない土地の方は特に相談相手を探すのは大変なことですし、今欲しいという情報を、すぐ手に入れら

れないということが、もしかしたら大事になってしまうこともあるのかなと思
いましたので、情報発信の大切さを、活動していて強く感じています。

現在、船橋市では「ふなっこナビ」というネットでの情報が発信されていま
すが、更新情報のような欄がないようなので、見る気がおきないというか、も
ったいないと思います。それと最近、「メッセ」ではママだけでなく、パパだ
けで講座に赤ちゃんを連れてきて、歌って、踊って、遊んでというようなこと
が、とても増えてきました。あとはおばあちゃん、おじいちゃんと一緒にのこ
ともありますので、情報発信をママだけに向けたものではなくて、パパやおじ
いちゃん、おばあちゃんに向けてアピールすることも考えていいのではないかと
思います。また、「ふなっこナビ」において情報が一元管理され、ここを見れ
ば全部わかるサイトになれば、電話して聞かなければいけない、と思っていた
ことでも、時間に関係なく夜中にでも調べられたり、市から通知を出しました
とか、受付期限は何月何日までという情報をお知らせに載せてくれるとうれし
いです。

情報を入れられる媒体が紙ベースにしる、ネットにしる、市長がおっしゃっ
たように、「メッセ」に来られない方たちに、どういう情報の届け方をすれば
よいのかという知恵等もいただきたいと思います。やはり、市からの情報発信
の信頼性は抜群です。

○市長

ありがとうございます。

情報発信につきましては、保健師の人たちが家庭を回って、1軒、1軒全部
お知らせしていくというわけにはいかないもので、どういった形で必要な情報
を提供できるかというのは、一番基本となることだと思います。

まず、「子育てナビゲーション」の作成についてですが、最初の頃は皆さん
が手づくりで編集していただいたことでとても評価がよく、回数を重ねてきて
変化が少なくなった時期があり、ある程度落ち着いたのかなという判断があっ
たというふうに聞いています。

ただ、さっきお話のあったように編集にかかわることで、また新しい人と知
り合えるという意味では大変有意義ですし、時代は動いているので、もっとこ

んなのが欲しよね、というところを、どうやって集めてこられるかというところも大事ですので、検討させてください。

あと、「ふなっこナビ」も立ち上げてから時間がたってきたので、更新情報や、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん等に対しての情報提供の方法を考えたり、この前、働くお母さんたちの会とやりとりをしたときに、パパになる教室はあるのだけれど、パパになってからの教室などの機会を設けて、お父さんたちに情報発信をしてほしいというような声もありましたので、そういった要素もどんどん加えて、充実させていきたいと思います。

今、私がずっとやってきているのが、異業種異世代の人たちをつなげるまちづくりで、例えばミュージックストリートでは音楽を核にしていますが、異業種、異世代の人たちがボランティアで入ってもらうことで、すごい横のつながりができます。情報交換の場としてもとても広がりがあるので、「メッセ」の皆さんもそういった子育てとは全く違うところに顔を出してもらって、特に経済ミーティングという150人ぐらい、漁師の人、農家の人、会社に勤めている人、いろいろな人が集まっているのですが、そこで自分がやっていることの話をしていただくことで、いろいろなつながりが出来てくるので、できれば今後に向けて何かの機会に参加をしていただいで、子育てプラスその外側にいる人達の連携もしていただけたらなと思います。

○団体

そうですね。ほんとうに網の目のようなネットワークがあると、新しい目線が生まれたりしてよくなると思います。

2番目に、実行委員目線で捉えたときの「親の成長を支えます」というテーマです。いろいろなイベントに参加することで私たちも成長しましたので、活動を通じて感じたことを話させていただきます。

はじめに、「メッセ」を立ち上げたときのことで、たくさん集まっているいろいろなアイデアが出てきて私たちにとってすごくわくわくするものでありましたし、子育てというものが、社会にとって魅力的な役割というか、一つの人を育てるツールというか、そういう捉え方もできるのではないかなと思っています。

公民館事業に参加されないお母さんに寄り添うボランティアでのことですが、今のお母さん方はすごく不安が大きく、真面目な人ほどいろいろ考えこんでいるので、寄り添って話を聞いてあげるととても元気になります。

「メッセ」に参加するメリットというのは、話を聞いてくれるお母さんたちに実際に会える、お互いの顔を知っている誰かがいるということが安心材料の一つで、そんなの大丈夫よという一言を聞くだけで、ガラリと景色が変わったりすることもあるので、そういう小さなお役に立てることができたらと思います。ボランティアをする側も人の役に立つことで、意識も変わり、勉強もするので、そういう意味では育てていただいていると思います。

また、「メッセ」ではいろいろな団体の代表の方や助産師さんなど、いろいろなプロの方にも、ちょっと気軽に知り合えるので、いろいろなお母さん、いろいろな世代の方たちが、集うことで次につながるのかなと思っています。

産前産後の女性の、心と体の健康をサポートする活動の中ですが、お母さんが0歳児の赤ちゃんを抱っこすることは、ものすごくしんどいですが、体力をつければ抱っこがづらくなくなり、パートナーとの関係性もよくなると伝えていきます。あとは、社会貢献に対する意欲がとても高まるという効果がありますので、結果として「メッセ」に来てもらえるようになるのかなと思います。

先ほど、市長もおっしゃったように、周知の方法であるとか、PRの方法というのは、今後も課題として考えていきたいと思っています。

○市長

行政は一つの方向性に向けてステップを踏んでいく組織なので、隙間の部分というのはなかなか埋めきれないのですね。なので、そういった意味では、皆さんがいろいろな形でかかわっていただいていることは、とても心強く思います。

私が昔やっていた公民館事業ですが、いろいろ自分たちでアンテナを張りながら考えてましたが、イベントというのはすごく難しく、この講座であれば、絶対にいろいろな人が来てくれるだろうと思っていても、3人しか集まらなかったということもありました。

ただ、いろいろな情報をどんどん提供していただいて、公民館でもこういうのをやって欲しいといったキャッチボールをしてもらえると、職員としても広がりができるので、いいのではないかと思います。

○団体

最後に活動の実務について話しをしたいと思います。継続していくためには安定した事業運営、運営資金が重要になってきます。2012年から千葉県小児科医会の小児救急啓発事業の助成金や企業の協賛金もいただけるようになりまして助かってはいるのですが、不確実な部分も大きいというのも確かなのです。安定した運営のために、船橋市との共催をお願いできたらと思っています。共催することで会場使用料の負担軽減や、広報誌のお知らせスペースの拡充があると、こちらとしても助かります。市のメリットとして、「メッセ」から発信する情報は、すごく莫大な量でいろいろな団体が入っているので、ちょっと立ち寄ったことをきっかけに、児童ホームや公民館などの子育て事業に参加できるようなきっかけにもなるのではないかと思います。

広報紙を見ると、「船橋健康まつり」は大きく載っていますが「メッセ」は小さいので、子育て中で悩んでいる人が見つけるにはもう少し、広報紙への掲載があるとよいかなと思います。

「メッセ」と私たちのボランティアの2つだけだと、ちょっと支えにくいので行政を入れた3つで支え合うことで、笑顔があふれる子育てのまちになると思いますし、これから「メッセ」が新たに進化するには、市民として「参加」ではなく、「参画」して一緒に造っていく協働というのは欠かせないと思います。

親の孤独感を埋めるというか、市長からも隙間を埋めるという言葉が出ましたけれど、その部分がすごく大事なところですね。市の行政と私たち市民が、協働という形で少しでも進んでいければ、これはすばらしいことかなと思います。最後に市民協働についての考えをぜひお聞かせ願いたいのですが。

○市長

協働とは共催の形でやっていくだけではないと思います。なぜならば、行政がかかわることで、非常に動きにくくなるときもあるためです。行政と、自由な考えを持った皆さんが一緒になると、自由にならない部分が出てくるケースは多いので、始める前にお互いに役割分担をよく話し合っただけで進めることがよいのではないのでしょうか。

ミュージックストリートでは市の職員も一緒にやっていますが、9割はそこに参加している実行委員の人たちがスケジュールから何から全部決めてやっています。そのほうがフレキシブルに、いろいろなことに対応できるのです。音楽という非常に自由な空間なのでそれができるのですが、子育てになると役所としても把握しておく必要があるので、こういった形のサポートが一番いいのかというのは、今後、担当者や皆さんともまた話をしてみたいと思います。

あとPRの話で、一般紙にニュースとして掲載されたことによってそのイベントの信用度がものすごく大きくなるケースが非常に多いので、これは「メッセ」開催時に市の広報が持っている一般紙とのパイプを活用してリリースをしていくことはやるとよいでしょう。

○団体

今日はこれで、実り多いお話し合いができたと思います。ほんとうにありがとうございました。